

YOU&あし

大田原国際交流会 Otawara International Friendship Association

発行責任者 後藤 秀雄

ガールスカウト栃木第23団
栃木県男女共同参画地域推進委員
大田原市子どもセンター協議会
大田原ふるさと民話の会
エルム福祉会「エルム」の園 理事



大田原市女性団体連絡協議会
大田原市家庭教育オピニオンリーダー
大田原市更生保護女性会
大田原市ボランティア連絡協議会
ピノキオお話し会
まほうのとびら



栗原さんは、1945年から小学校教員として子供たちの指導にあたり、ご主人が校長になると同時に1972年に小学校を退職されてからは、栃木県に初めてガールスカウトを設立され、県支部長、トレーナー、そしてリーダーとして活動して来られました。少女育成のために地域の様々な団体に関わり、それぞれの団体において、なくてはならない存在でありました。

大田原国際交流会ではおよそ30年間活動され、毎年、ネパールスタディツアーに参加し、広報委員として、広報誌、記念誌発行にご尽力いただきました。パキスタンのマララ・ユスフザイさんが、2014年、ノーベル平和賞を受賞されたときは、まるで少女のように喜ばれ、交流会のイベントの時に、「マララストーリー」を寸劇にて演じられたことは、皆様の記憶にも新しいことと思います。国際ソロプチミスト日本財団から「社会ボランティア賞」を受賞されたときも、普段でしたらお断りになるのですが、「賞金をネパールのウグラダラ小学校支援に使ってもらえたら」ということで受けて頂きました。大田原市更生保護女性会、オピニオンリーダー、大田原市ボランティア連絡協議会等々、読み聞かせは「ピノキオ」「まほうのとびら」「大田原ふるさと民話の会」に所属され、個人で若草園、親園ほほえみセンターにも定期的に訪問されておられました。

20年前の那須水害の折には、寝袋だけ持ってボランティアに参加され、その時のご主人の言葉は「行っちゃった、止めてもだめだから」と印象的でした。

「息子が就職して、家に入れてくれたお金をただおかず代にはできないから」と大田原市善意銀行へ、40年以上、毎月多額の寄付をされておられました。図書館にも寄贈本が多数あり、そのことを伺うと「孫が生きていれば読んであげたかった」と言葉少なに話されたことが思い出されます。

晩年は、それぞれの団体の礎をきちんと固められ、記念誌を発行し、人を育て、託されて最後までボランティア一筋の方でした。享年90歳、大田原市の女性と女兒のためにそして地域のために生涯を生き抜いてこられたのでした。ご冥福をお祈りいたします。

会員 藤沼 久子